

今の学校教育に思う



岡崎商工会議所会頭
伊藤 公正 氏

最近の日本経済は、世界経済の動きを抜きにしては語れないほど、国際化、グローバル化しています。私の所属する富士フアイン(株)は、五十ミクロン以下の超極細電線を中国大連工場を主力に製造している会社ですが、その需要は、中国に集中しており、世界の電子部品の八十%近くは、中国が世界の供給基地となっています。このままでは、日本の製造業は、無くなってしまおうのではないかと、思われるほど、中国への生産シフトは急激に進んでいます。日本のように資源の無い国は、知恵を出して高付加価値の商品を世界に輸出しなければ、国が成り立ちません。そのためには、高い技術を生み出す教育が不可欠であります。しかし、最近、気になることがあ

ります。それは、「ゆとり教育」の名のもとで、学生が勉強しなくなってきたことです。一年ほど前の新聞に、十七歳の高校生の勉強時間が、日本人と中国人の比較で出ておりました。日本人四十二%、中国人五%。そして、三時間以上勉強する学生は、日本人五%、中国人三十%でした。また、科学技術の知識に関して、先進十四か国の内、日本は十三位でした。最近のニュースでも、イラクの位置を正しく示すことのできる大学生が四十%しかいないとか、北朝鮮の位置を中国の北と誤っている大学生がいるとは、何をか言わんやです。二十一世紀を託さなくてはならない若者が、このようなことではたいへん心配です。



教育随想

月報

岡崎の教育



平成17年4月1日

4月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
岡崎商工会議所会頭 伊藤 公正氏	
この人に聞く	2
愛・地球博「地球市民村」 コーディネーター 柴田 久史氏	
羅針盤	2
南中学校長 河合 好文	
ふれあい	3
羽根小 竜南中 安藤 総子 大洲壮一郎	
特集	4
平成17年度 学校教育の視点	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
正座で入学式(昭和43年)	
この本を	8

今は、日本の国の中だけの競争ではなく、世界中の国々の人々との競争です。今の学校教育を根本的に考え直さなくてはならない時期にも来ています。

(いとう こうせい)

この人に聞く

ふるさとシリーズ



人を愛し、人をつくる

愛・地球博「地球市民村」
コーディネーター

柴田 久史 氏

「今回の愛・地球博は、国家や企業だけではなく、市民参加型の万博です。これは、初めての試みで、市民の草の根の活動が社会権を得る大きなチャンスなのです。」

二十代前半からボランティアとして活躍してきた柴田さん。二十五年前にはカンボジアやソマリアへ個人で出向き、医療活動の支援を行った。その様々な経験を生かし、現在、地球市民村のコーディネーターとして活躍されている。



「コーディネーターといえば格好はよいのですが、要は地球市民村に参加する三十団体の連絡、調整を行う仕事です。ちなみに『おかげさまで』もその団体の一つです。」

名古屋と東京を頻繁に往復している柴田さんは、今いちばん多忙である。お話を伺ったのは万博開会直前。苦労も多い。

「各団体は、主義主張がそれぞれ違います。対立する団体もあります。その団体同士を一つにすることがいちばん難しい。今回の万博のテーマである環境問題については特に大変です。被害者と加害者が分けられませんが。しかし、どの団体も主義主張は違っても解決策を考え、実行しているという共通点があります。二十一世紀は対立ではなく手をつないで取り組もうという提案なので

す。」

目を輝かせながら語り続ける。

「ユニットごとにいろいろな人たちが活動しています。フィリピン、バングラディッシュなど様々な国の人たち。ごみ減量に成功した市民の会の人たち。子供たちには、その人たちにじかに会ってほしいのです。その人たちが地道に実行しているというのを、子供たちにぜひ知ってもらいたい。そして、自分にできることは何だろうと考えてもらいたい。そうすると、自分と世界がつながっている実感できるはずですよ。」

学習塾で子供たちと接していた経験から、将来の日本を背負っていく子供たちを育てようと「わんぱく寺子屋」を立ち上げた。自然体験など子供や親たちに企画運営を任せている。「最近の子供たちは自分に自信を持っていない。だから、流されていく。道徳心を持ち、社会常識のある人になってほしい。ですから、子供たちを内面から育てたいのです。そして、老人や子供に優しい岡崎にしたい。」

明日の岡崎をしっかりと見据え、着実に子供たちを育てられている。

氏名 しばた ひさし
生年月日 昭和三十四年七月十四日
住所 竜美南一―十一五



確かな教育活動の推進を

南中学校長 河合 好文

「自己教育力の育成」(平元 教育課程改訂)、「子供に生きる力とゆとりを」(平八 中教審答申)、「幼児期からの心の教育のあり方」(平十 臨教審答申)と社会の変化に対応すべく、教育制度、施策も次々と打ち出されてきた。こうした中で、現学習指導要領による教育課程、完全学校週五日制の実施は三年を経過する。そして、今また「文科相 ゆとり路線転換・総合学習削減の意向」、「文科相 学力低下で総合的な学習の時間の見直し示唆」等が報道され、新たな課題として指摘されている。しかし、振り返ってみるに、昭和二十五年に学習指導要領改訂を前に、当時の教育諸問題として次の四点が挙げられているのである。

一 地方公共団体の行政運営と教育

赤ちゃんが生まれた

羽根小 安藤 総子

十一月。一学期から飼育しているザリガニのルチアの産卵した卵がかえった。一センチにも満たない小さなザリガニの透き通った体を、虫眼鏡越しに、驚きと興奮の眼差しで眺める子供たち。

「ルチアの赤ちゃんがびっくりするので、静かにしてね。」と、A子がそつとささやく。

四月。教科書に載っている生き物の写真を眺めながら、「この中のどれも気持ち悪い。飼いたくない」と言う子がいた。その中にはA子もいた。そんな子供たちのために、いろいろな教科で生き物を取り上げた授業をした。

二学期、水槽の水かえを時々手伝うだけだったA子は、ザリガニの産

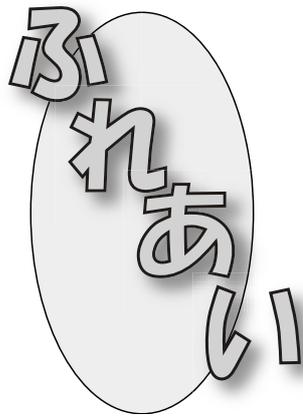


卵を目の当たりにし、大きく変わった。いった。

一月。A子は生き物係になった。毎日、水かえにえさやりにと忙しうだが、その表情は生き生きと輝いている。

「先生、この虫かわいいよ。」と、愛しいものを見るような表情で、校庭で見つけた虫を手に近づいてくるA子。思わず私の顔もほころぶ。

「先生、ルチアが脱皮したよ。」今日もA子の元気な声が教室に響いている。



心の花を『満開』に

竜南中 大洲壮一郎

「こんなバラバラな状態は学級とは言わない。ここはただの部屋だ。」二学期の総合テスト直前のことであった。勉強に集中できない雰囲気

を叱って、私は教室を出た。次の日の早朝、職員室に学級代表

のA男を呼んだ。私はA男に、「昨日のことについてわたしはこうしたいと思うが、君はどうか」と問いかけた。A男は考え込んでいた。

A男には、ことあるごとに学級に対する私の思いを投げかけ、学級全体のことを考えられるリーダーとして育てたいと考えていた。

数日後、「これを読んでください」と、A男は四十冊の生活ノートを持ってきた。そこには、一人一人の学級への思いが熱く綴られていた。後日聞いた話だが、A男はクラスとしてのまとまりを取り戻すために、みんなに、「僕は二組を復活させたいです」と、涙ながらに訴えたそう

だ。一人の思いが四十人の心の花を咲かせることにつながり、二組の級訓である『満開』に一步近づけたのかなと感じられた。しかし、今回のことは学級経営の未熟さを突きつけられる思いでもあった。



委員会の権限や教育行政との調和の問題

一 社会科の取扱と道徳教育や愛国心の指導の問題

一 生活経験重視に偏り、系統的、客観的な知識獲得の軽視による基礎学力の低下の問題

一 民主主義のはき違えによる行き過ぎた教育の是正の問題

これらは、昭和二十五年という時代を伏せれば、今日でも通用する問題ばかりである。現在の教育諸課題としても、何ら違和感のないことに驚かされる。つまり、教育制度が始まったときから本質は変わっていないのである。

しかし、これからも改革の声は止むことはなかるう。なぜならば、時代は変わるからである。しかも時代は要求するばかりである。社会の変化への対応を誤らないために、原点を忘れてはならない。

教育改革は我々に対する新たな期待であるとともに、現状への不満であると真摯に受け止め、教育実践に当たりたい。

今は、改革の真の趣旨を見極め、しっかりとした基軸のもと、ぶれることなく、より確実な教育活動の推進が求められるときなのである。



平成17年度 学校教育の視点

額田町との合併を控えた中核市岡崎は、「深めよう学校家庭地域の絆」を教育スローガンに掲げ、「二十一世紀教育ビジョン推進計画」を策定した。これは、「心豊かにたくましく生きる力を育む」ことを目標にした学習指導要領の趣旨に沿うもので、子供の主体性と個性尊重の教育の進展をいっそう図ることをねらいとしている。

本市の学校教育は、「確かな学力」と「豊かな心」を育み、「信頼される学校経営」を推進することを指導の重点に掲げている。それは、未来を切り拓き、たくましく生きぬく力を身に付けた子供に育てるためである。各学校・園では、策定した教育ビジョンに沿って、また、前年までの成果と反省をもとに、それぞれの特色を生かした実践、創意工夫に満ちた取組を意欲的に実施していきたい。

一 「学ぶ喜び」を味わわせ、「確かな学力」を育む学習指導の推進

子供には、本来、知りたい、分かりたい、できるようにしたいという欲求がある。その欲求を学ぶ楽しさ・喜びとして高め、意欲をもって自らの力で社会を生きぬく基礎的な力を付けるために、次の二点に留意して指導したい。

第一は、基礎的・基本的な内容の定着である。子供が生涯にわたって

成長・発達していくための基礎・基本を明確にし、繰り返し学んだり体験的な活動を取り入れたりして確実に身に付けるようにさせたい。そこでは、進んで学ぼうとする意欲や、どう学ぶかという学び方・学ぶ力が重要になる。昨今の学力問題を払拭すべく教師の努力で基礎学力の徹底を図りたい。

第二は、周囲を取り巻く社会事象に対して自分なりに気づき、目を向け、課題意識をもって追究できる力を伸ばすことである。それによって、もっと知りたい、調べたいという意欲が強くなり、意欲的な学びが促進される。そのことで、子供たちが学ぶことの楽しさや喜びを知り、生きてはたらく確かな学力を身に付けることにつながる。

また、子供一人一人を見つめ、個性を生かすことにもさらに心がけたい。そして、学びをより効果的にするために、常に評価の観点や規準に照らし合わせ、個々の学びが確かなものになっているかを見極めていきたい。

二 「豊かな心」と「たくましい体」を育む教育の推進

子供を取り巻く環境の著しい変化に対して、人間として豊かに生きることができるようになるために資質と能力を他とのかかわり合いの中で



学校教育に求められているものは、児童生徒が人間として生涯にわたって心豊かで、力強く生きぬくための基盤となる能力を育成することと、知・徳・体の調和のとれた感性豊かな人間形成を図ることである。

各学校においては、基礎的・基本的な内容を重視し、個に応じた指導を充実するなかで、児童生徒の個性を伸ばす教育を展開することが大切である。

そのために、学校の創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成して、子供が自他を敬愛し、喜んで通うことのできる魅力ある学校づくりを目指す。

「教育は人なり」の至言のごとく、岡崎の教師は、教育者としての使命感に燃え、全校一致の指導体制のもと、敬愛の情で結ばれた師弟関係を確立し、学校と家庭と地域との連携のもとに信頼される教育の創造に努める。

指導の重点

- 一 「学ぶ喜び」を味わわせ、「確かな学力」を育む学習指導の推進
- 一 「豊かな心」と「たくましい体」を育む教育の推進
- 一 特色ある学校、開かれた学校づくりを通じた「信頼される学校経営」の推進

育み、磨き上げていくことが求められる。

特に、人とかわる場面においては、見つめる心・思いやる心・感謝する心・我慢する心等をもつことが大切である。誠意ある行動をとることができれば、相手は心地よく受け止めることができる。そして、お互いの信頼関係が深まり、人としての「豊かな心」が醸成されていく。

また、教師の人間性が、子供の人格形成に与える影響は大きい。教師自身が正義と倫理をもって、自己研鑽に励み、子供の手本にふさわしい豊かな心と人格を磨き上げたい。

「たくましい体」を育成することは『生きる力』に直結するものである。体力の向上および心身の健康の増進を図るには、体育科の時間だけでなく、全教育活動の中で計画的に行う必要がある。また、家庭や地域との連携を図り、日常生活におけるスポーツに親しむ習慣や健康、食生活のあり方にも留意させたい。

三 特色ある学校、開かれた学校づくりを通じた「信頼される学校経営」の推進

豊かな心の育成、自ら学び自ら考える力の育成、基礎・基本の定着や個性を生かす教育等の学習指導要領のねらい実現するためには、特色ある学校づくりや開かれた学校づくりがその基盤となる。そこで、各学校

が子供たちや地域の実態等を踏まえ、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開していくことが大切である。

そのためには、指導方法の改善や工夫、スクールサポーターボランティアやスパーチャーター、地域の教育力等を積極的に活用したい。

また、学校の施設をはじめ、教育活動や学校運営、教員の意識等、学校を開くことも大切である。そのために学校便りやホームページ等で、学校経営方針や子供の学校生活等を積極的に知らせたい。また、学校参観週間を設け、具体的に見てもらう機会を設けていきたい。さらに、オピニオン・サークルの活動や、中学校区児童生徒健全育成協議会等を中心に、学区全体で子供たちを育てていくことも重要である。このようにいっそう家庭や地域の信頼に応える学校づくりを推進したい。

以上、三つの重点に沿った教育活動を積極的に推進し具現化を図るために、目標管理サイクル「Research (実態把握) → Plan (目標設定) → Do (実践) → Check (評価) → Action (改善)」のもと、教育活動の充実をさらに図っていかねばならない。各学校・園では、校長・園長のリーダーシップのもと、指導体制の確立を図り、全職員一丸となって子供の育成をし、信頼される学校づくりに邁進したい。

お知らせ



● 教育最新情報

○特別支援教育の充実

本年度より、愛知県教育委員会の特設教育課が、特別支援教育課に変わる。本市もこ

の意向を受けて、これまでの特殊教育部にコーディネーター部をプラスし、通常学級に在籍する子供たちにも目を向けた特別支援教育部に改める。また、特別支援教育連携協

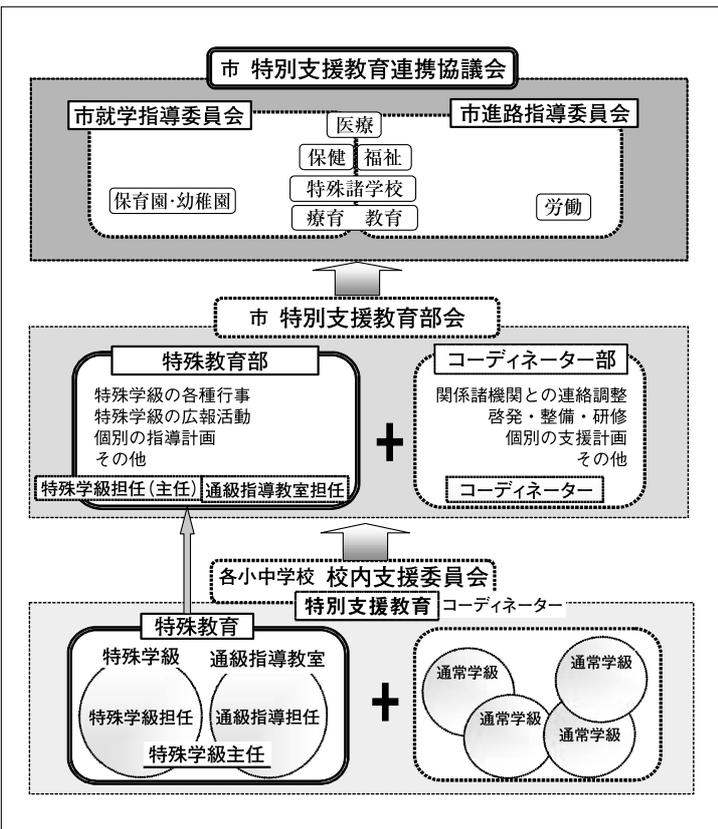
議会を立ち上げ、関係部局のネットワークを構築し、特別支援教育の一層の充実を図る。具体的には、次のような取組をする。

◆特別支援教育研修会

研修会の実施により、平成十六年度は、各学校で教員の意識の高揚を図ることができた。今年度も三回実施する予定だが、コーディネーターを中心に校内支援委員会が充実することを期待している。

◆特別支援教育連携協議会

特別な教育支援を要する障害のある子供について、教育、医療、福祉、労働の関係部局が情報連携を図り、乳幼児期から中学校卒業後までを見据えた具体的な支援・指導について検討する。



▲平成17年度本市の特別支援教育の全体像

●各所だより

○教育研究所

教員の研修、研究、教育相談活動の拠点としての役割をもつ教育研究所は、開館から一年八か月を迎える。これまでの利用者数は、二月末現在で不登校相談者が一四五名、そよかぜ相談者が八三五名、資料閲覧者が四九一名、研修室の利用者が二一八六九名であり、教育研究所全体としては、二四三四〇名となる。

これは、岡崎市の教職員が一人あたり十三回程度利用していることになる。

現在、新たに教育人材バンク「スーパーティーチャー(仮称)」を立ち上げ登録を増やしている。また、平成十八年一月には額田との合併も決定しており、さらに多くの利用者が期待される。今後も、教育現場との連携を図りながら、各活動の充実に寄与していきたい。なお、各施設の利用については、全て予約制であるため、事前に電話で申し込んでいただきたい。

○少年自然の家

本年度、当施設では市内六十の小中学校の利用のほか、主催事業を十四回実施する。また、四年目を迎えた会員制「ネイチャークラブ」も、年八回と充実させていきたい。

一方、本年三月にはたるの広場が九五八〇平方メートルの広さに拡張され、一度に四〇〇人がキャンプファイヤーをすることで多目的広場が完成した。これは、岡崎市が一億一千万円をかけ用地買収・広場造成したものである。

○ハートピア岡崎
教育研究所で所員による教育相談を始めたが、広報の不足かまだ利用者が少ない。今後さらに啓発に努力していきたい。

新設した夏休み特別教室は、学習面だけでなく子供たちの生活のリズムを保つためにも大変有効だった。

今年度も内容をさらに充実させ計画していきたいと考えている。また、多様化する事例に的確に対応するために、昨年以上に職員の研修にも努力していきたい。

●表 彰

※全て昨年度末の受賞であり、学校・学年も昨年度の内容である。

◆KWN国際賞国内代表選出コンテスト

最優秀賞（日本代表）

- 小豆坂小 六年三組児童
- 「かけがえのない自然四谷千枚田」

◆第五十二回全国小中学生優秀作品コンクール

●作文の部

文部科学大臣奨励賞

- 東海中一年 鈴木 梨紗

優秀賞

- 緑丘小三年 小黒 奈緒

学校奨励賞 東海中学校

●書写の部

学校奨励賞 岩津小学校

◆全日本学校関係緑化コンクール

●学校林等活動の部 準特選

国土緑化推進機構会長賞

秦梨小学校

◆副読本「考えよう！わたしたちの快適な住まい」読後感想文コンクール

銅賞 南中二年 可児 友子

南中二年 松崎 美紗

◆東海ブロック小学生バレーボール新人大会

男子優勝 矢作南小学校

※同校は県大会でも優勝

◆平成十七年度我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル校

常磐南小学校

◆古市杯バレーボール新人大会

●男子A級の部

優勝 矢作南小学校

◆愛知県読書感想画コンクール

※◎は全国へ出品

優秀賞

◎六ツ美西部小三年 中根 仁

◎藤川小六年 太田さおり

◎甲山中三年 鳥居 千穂

優良賞

◎岡崎小二年 平松 茉莉

生平小二年 小林龍之介

六名小三年 今井 瑞希

六名小四年 大下 拓磨

矢作東小五年 渋民 萌奈

大樹寺小五年 天野奈津美

大門小六年 鈴木 優太

甲山中一年 武笠 真結

◆平成十六年度読書郵便コンテスト

愛知県知事賞

連尺小一年 山口佳那子

愛知県教育委員会賞

上地小一年 重村 実奈

日本郵政公社東海支社長賞

連尺小学校

※他に入選者十七名

◆上廣道徳教育賞

優秀賞 矢作北中 清水 孝治

◆愛知県自作教材コンクール

●ビデオ教材

最優秀賞 教育長賞

自作教材制作委員会C班

優秀賞 同 B班

●コンピュータソフトウェア・マルチメディア教材

最優秀賞 教育長賞

自作教材制作委員会G班

優秀賞 藤川小 竹内 昭博

葵 中 名倉由香里

●平成十七年度新任教員

平成十七年度岡崎市小中学校新規採用教員は、五十六名（男性二十六名、女性三十名）。配属は次のとおりである。

○小学校

梅園小 鈴木 良美

根石小 藤原 克子

美合小 三浦有紀子

緑丘小 高原 祥代

羽根小 廣間三枝子

岡崎小 岩瀬 恵里

六名小 大平 雅子

三島小 片山 知子

竜美丘小 石田 和子

竜美丘小 鶴田 純司

連尺小 水越 健介

○中学校

甲山中 市田 直大

甲山中 小島 裕美

武田 寿恵

橋本 祥太

渡邊 留美

二村 帆波

水谷 抄子

森本 英文

青山 高規

山田 周

鈴木恵里子

佐藤 友香

広幡小 河村 沙織

井田小 菅沼 友香

本宿小 横山 景一

細川小 大野 孝輔

岩津小 佐野 大介

大樹寺小 藤谷 朋子

大門小 渡辺 まや

矢作東小 高橋 遼

矢作北小 檀浦 啓造

矢作西小 石田 勝重

矢作南小 長坂あつ子

六ツ美北部小 新名 紘子

六ツ美南部小 木島 綾子

上地小 加藤あゆ美

小豆坂小 飯田 衛

小豆坂小 鈴木 絢也

北野小 曾根原 泉

六ツ美西部小 大山千加良

六ツ美西部小 成瀬 正和

城北中 鋤柄 光治

城北中 土屋 晶子

福岡中 鈴木 裕子

福岡中 鈴木 彩子

岩津中 徳 斉尚

矢作中 松田 優佳

矢作中 石橋 貴明

六ツ美中 近藤加夜子

矢作北中 岡野 慎吾

新香山中 小岩 大

北中 杉浦 諭

六ツ美北中 尾崎 秀彰

六ツ美北中 伊藤 健司

養護教諭 矢作北中 森 麻里子

●平成十七年度岡教組執行委員

委員長 荻野 卓寛

副委員長 加藤 有悟

書記長 小田 昌男

書記次長 岩瀬 竜弥

組織部長 河合 正浩

情宣部長 安藤 眞樹

教文部長 林 幸康

福対部長 深津 伸夫

調査部長 柴田 明美

会計委員 成田 隆行

青年部長 河合 泰宏

女性部長 杉山 文子

◆平成十七年度愛教組執行委員・常任

会計委員 荒河 昌吾

青年部副部長 青木 貴之

監査委員 荻野 卓寛

・題 字
 ・タイトルバック
 ・カ ッ ト
 岡崎市教育長 藤井孝弘
 竜南中 山田ゆかり
 六ツ美南部小 青木貴之



フォトヒストリー 岡崎の教育

正座で入学式 (昭和43年)

写真提供：生平小学校

昭和四十三年四月の入学式の様子である。
 まだ、体育館がなかったこのころは、学校の中で一番広い部屋であった家庭科室で入学式が行われていた。今では、あまり見かけない畳の部屋である。
 この年入学したのは、男子六名・女子六名の十二名。新一年生は、胸に花飾りをつけてもらい、きちんと正座している。在校生も行儀良く正座して、真剣にお話を聞いている。
 入学式を迎えた子供たちの真剣な表情は、今も昔も変わらない。

この本を

- * 22年目の返信 大村はま・波多野寛治 小学館 ￥2000
- * あらすじで読む日本の古典 小林 保治 楽書館 ￥1000
- * 生きがいについて 神谷美恵子 みすず書房 ￥1000
- * 小説上杉鷹山 上・下 童門 冬二 学陽書房 各￥1000

***学校を変える** 大瀬 敏昭 ￥1000
 茅ヶ崎市立浜之郷小学校は、開設6年目でも「始まりの永久革命」を実践している。学校は内側からしか変えられない。子供の学びを保障する。そのためには、教師の自己改革が必要である。どのように自己改革をしていったのかを、それぞれの担当者が述べている。いわゆる「よい授業」といわれるものから子供の学びを保障する授業へ自己改革をしている。
 学校が変わることによって、不登校児童が20人からゼロになった。

オーケストラ演奏や子供たちによる合唱が愛・地球博の開幕に花を添える。「自然の叡智^{えいち}」をメインテーマに掲げ、世界中の人々の知恵と力が集結する。多くの「ひと・もの・こと」に触れ、驚き、地球を感じ、世界と出会い、心を豊かにしていく子供たちを期待したい。

シオ スア

シバザクラで覆われた道路沿いの斜面が、まもなく白やピンクのカーペットに様変わりする。厳しい寒さに耐えてきた自然界のエネルギー。その開花を間近で感じるたびに、新たに学年をスタートさせる力がわき立つような感覚に浸る。心地よい緊張感である。

頭の前から足の先まで、なにかもが新しく輝いている。新入生の緊張した顔がなんともほほえましい。その真剣な眼差しは、新しい世界への期待に満ちている。
 新入生だけではない。彼らを迎える子供たちの笑顔も、春の日差しにさらさらと光って見える。
 すがすがしさをを感じる四月、今年度がスタートした。学力低下や総合的な学習の時間、防犯対策など、今、教育について様々な視点で話題となっている。多くのことが学校や教師に求められているということであろうか。使命感を感じ、しっかりと子供と向き合っていきたい。